

## 第 18 回伯耆の国よなご文化創造計画検討委員会 会議録（概要）

- ・日 時 平成 24 年 7 月 26 日（木曜）10 時～12 時
- ・場 所 米子市役所旧庁舎 3 階 603 会議室
- ・出席委員の氏名  
福島 多暉夫（委員長）・伊藤 千代・遠藤 彰・神庭 美喜恵  
先灘 達也・前田 宣子・山根 郷子・狩野 弘幸・丸山 柚美  
小原 顕・田中 秀明  
（欠席委員 国田俊雄、佐伯啓子、高橋素子）

- ・説明のために出席した職員氏名

教育委員会事務局	事務局長兼教育総務課長	平木 元基
教育総務課	主査兼教育企画室長	岡田 裕二
生涯学習課	課長補佐兼生涯学習係長	幡井 慎一
文化課	課長	岡 雄一
	課長補佐兼文化振興係長	長谷川 秀樹
	文化財係長	下高 瑞哉
	主幹	古山 俊彦

- ・議事日程
  - ・副委員長指名
  - ・伯耆の国よなご文化創造計画の前期計画の総括について

開 会 10 : 00

- ・副委員長指名  
副委員長に神庭美喜恵委員が指名された。

- ・議 事 伯耆の国よなご文化創造計画の前期計画の総括について

**福島委員長** まず前期計画の総括について、事務局から報告をお願いします。

**岡課長** 事前配付した「伯耆の国よなご文化創造計画の前期計画の総括」をもとに説明します。  
前回 17 回の検討委員会の中で、平成 23 年度の進ちょく状況について説明しましたが、その後、前期全体の総括という形で、成果や今後の課題について詳しくまとめました。まず資料 1 ページの 1 番目です。

この文化創造計画は 17 年度から 31 年度までの 15 年計画であり、その前期が今年度平成 24 年度で終了します。この間、前期計画を推進してきましたが、社会情勢の変化や市民ニー

ズの変化など本市を取り巻く状況も変化し、当初に計画していた事業の内容や実施時期が変わってきているものもあります。ある意味、情勢の変化に柔軟に対応してきたともいえるのではないかと考えています。今回総括を行って、そこから出てくる課題等を検討し、後期計画につなげていこうということです。

2 番目は「伯耆の国よなご文化創造計画の位置付け」です。当初から説明しているように、平成 16 年 9 月に合併協議会で策定された「新市まちづくり計画」における重点プロジェクトに掲げられたことを目的として、平成 18 年の合併後初めての総合計画「新米子市総合計画」や平成 23 年度に策定した「第 2 次米子市総合計画」で「こころがいきいき」という中に位置付けており、重要な施策のひとつとして取り組んでいます。

文化創造計画は基本計画という考え方であり、今後の市の文化施策の基本方針を定めるといような位置付けにしています。個別には色々な事業が入ってくると思いますが、それら事業につきましては個別計画なり、事業計画で対応していくことになると思います。

次に 2 ページ目です。これまでの策定経過を記述したもので、皆様方に関わっていただいた経過を列記しています。

4 番目は「文化創造計画の主要施策」をあげていますが、これも基本計画の中から抜粋したもので、①番から⑥番まで、「歴史的文化（よなごの宝）の掘り起こし事業」から「情報ネットワークの構築事業」の中で、事業内容を抽出したものです。

5 ページ目の下半分から 5 番目に「前期計画の総括」を記述しており、ここからが本日の内容となります。まず全体的な概略をお話し、その後個別事業の説明をします。

計画された事業は、前期計画期間中にそれぞれの項目の中で列記してありますが、①番の「歴史的文化（よなごの宝）掘り起こし事業」は、「よなごの宝 88 選定事業」です。②番目の「文化活動の促進支援事業」は、「88 フォトモール米子の景観 88 選選定事業」です。③番目の「文化創造計画」人づくり事業は、平成 19 年度～21 年度の成果を踏まえた人づくり事業で、「よなごの宝 88 探訪会」「よなごの宝を語る会」をあげています。④番目は、「文化施設等の整備事業」で、計画には「山陰歴史館整備事業」、「美術館整備事業」、「図書館整備事業」、「埋蔵文化財センター整備事業」、「伯耆古代の丘整備事業」をあげています。

⑤番目は、「歴史的文化資料の整理とデジタル化事業」で、現在所蔵する歴史的な資料を中心に、これをデジタル化してデータ保存するという事業です。

⑥番目が「情報ネットワークの構築事業」で、これも項目と同じ内容で、情報ネットワークの構築ということです。

(2) 番目の「事業の実施状況」における個々の事業の実施状況は個別の事業別総括で詳しく記述しています。概要をまず説明します。事業の実施状況は、①概ね順調に実施できたものと、②「事業着手が遅れたが実施中のもの」これは当初計画した時期より多少ずれ込んだものの、現在実施中の事業です。それと③「未実施」という 3 つの区分にしています。

まず、「概ね順調に実施できたもの」ですが、「よなごの宝 88 選選定事業」「よなごの宝 88 探訪会」「よなごの宝を語る会」「88 フォトモール米子の景観 88 選選定事業」「埋蔵文化財センター整備事業」「伯耆古代の丘整備事業」「歴史的文化資料の整理とデジタル化事業」が概ね順調な成果があったという捉え方をしております。「よなごの宝 88 選選定事業」は、地域に埋もれている歴史的資源の掘り起こしや調査により基礎的な資料作成を実施し、そのなか

ら代表的なものを選定して冊子を作成、配布したものです。それと、「よなごの宝 88 探訪会」、「よなごの宝を語る会」は、先ほど申し上げた「88 選選定事業」の成果を活かし、現地探訪を毎月 1 回、語る会を隔月で 1 回開催して地域の宝の掘り起こしなどを行い、地域の皆さんに周知していく。それを活用する動きを作り出して市民の方が自ら企画し、実践できるような人材の育成にもつなげていこうという人づくり事業としての側面を持った事業展開を図ってきました。

それから、「88 フォトモール米子の景観 88 選選定事業」ですが、これは合併した米子市と旧淀江町部分の全市域を対象にして「米子の景観 88 フォトコンテスト」を実施しました。合併後の自分の住んでいる地域を見つめなおしたり、それまで別々の市・町であったそれぞれの地域の良さを発見するといった新市の一体感の醸成を図ることと、市内にはこういった素晴らしい景観があるということを再認識していただくこと、それによって自分たちが暮らす地域に親しみや愛着を持ってもらうことを目的として取り組み成功しました。写真展示も、商店街を利用したこれまでとは一味違った新しい取り組みができ、最終的には市民有志の手によって写真集もできましたので、写真を切り口として、市民の意識の盛り上がりにつながったと考えています。

また「埋蔵文化財センター整備事業」ですが、これは埋蔵文化財の適切な保管保存、公開を含めた活用、あるいは調査研究機能を持つ施設として整備し、埋蔵文化財保護に資する事業展開をしてきたものです。

もうひとつは「伯耆古代の丘整備事業」で、「史跡上淀廃寺跡」の復元を重点的に行って、23 年度中にひとつおりの完成しており、最終年度 24 年度は植栽等を行って工事がすべて完了することになっています。

もう一つ「歴史的文化的資料の整理とデジタル化事業」ですが、歴史関係施設が保有している膨大な資料数万点のうち可能なものについてはデジタル化して保存することにしており、この作業は 23 年度中にほぼ完了し、これからどういう活用していこうかという段階に入ってきています。

以上、まず順調に実施できたものを部門ごとに説明しました。この後個々の事業について、10 ページ以降に付けている事業別の総括表により担当から説明します。

**下高係長** 個々の事業について概略を説明します。まず 10 ページをお開きください。主要施策の中では「歴史的文化的掘り起こし事業」として位置付けられている「よなごの宝 88 選選定事業」は、地域に埋もれている文化財を掘り起こして、自分たちの住んでいるところにはどういったものがあって、それを保護し、どう活用してまちづくりに活かしていこうかということを最終的な目標として実施したものです。

一般の市民の方から実行委員を募って実行委員会形式で実施したもので、事業期間は平成 19 年度から 21 年度で、19・20・21 年度と年度別の実施状況載せています。最終的に「よなごの宝 88 選」で選定された「よなごの宝」を載せた冊子を 500 部作成し各所に配布したところ非常に好評で、一般の方から購入の要望があり、実行委員会増刷して、市内の主な書店、駅のキオスク、観光関係の施設等で販売しています。第 2 刷を完売、現在第 3 刷を増刷し販売中です。非常に好評で、県外の方などにも同窓会、県人会で活用して頂いています。

冊子には 88 を選んで載せておりましたが、実際には 500 近いものが候補としてあがりました。これを「探訪会」につなげて、その地域地域に埋もれているものはないか探りながら、事業を展開しているところす。

**長谷川補佐** 続きまして 11 ページです。主要施策名は、「文化活動の促進支援事業」、「88 フォトモール米子の景観 88 選選定事業」です。事業概要は、市内にある様々な景観を見つめなおす機会を提供し、市民文化の振興を図ることを目的として、写真文化に着目し、景観をテーマとした市民からの公募による写真展を商店街で実施したものです。応募された写真が 647 作品あり、美術館で展示して市民の皆さんに投票で選んでいただく方法を取り、88 点を選んでその写真集を刊行しました。

実行委員会形式で実施したもので、事業期間は 19 年度から 21 年度です。皆さんが商店街で足を止めて写真を見ることで米子市のよさを再認識することができたという感想もいただいております、自分達が暮らす地域の親しみや暮らしやすさを育むことができたことや、合併した淀江地域を含む全市から応募があったことから、新市の一体感を育むことができたといったような成果がありました。写真集は市民有志で作成したもので、市民の力を活用することができたと考えております。

**下高係長** 12 ページです。基本計画の中で「文化創造計画の人づくり事業」があがっています。

「よなごの宝 88 選」を人づくりにつなげていくということで「よなごの宝 88 探訪会」と「よなごの宝を語る会」の 2 本を展開しています。

「よなごの宝 88 探訪会」はだいたい月に 1 回、第 3 日曜を中心に市内の各校区単位くらいで開催しているもので、「よなごの宝 88」に選ばれたものと地域にある貴重なもの、その地域の様子を何らかの形で表しているものなどを訪ね歩く会です。毎回 30 名程度の参加者があります。

「よなごの宝を語る会」は隔月で、だいたい土曜日に開催しているものです。座談会のような形で、学識経験のある方を招き話を聞きながら、次の地域めぐりに活かしていこうというものです。毎回 20 名程度の参加者があります。ただ単に会に参加して話を聞くだけにとどまっていたら人づくりにならないので、地域ごとに何かしら活動していただけるような働きかけというか、仕掛けができないか思案中です。今のところ 3 校区ぐらいで、地域の宝をめぐる会を自分たちでやり始めるような動きもあり、成果が出てきたかと考えています。

16 ページです。まず完了した事業を説明します。「埋蔵文化財センター整備事業」は主要な施策では、④の「文化施設等の整備事業」にあたります。空き校舎を利用して、課題になっていた米子市の埋蔵文化財を中心とした文化財の保存・活用施設を整備したものです。18 から 21 年度の 4 ヶ年事業として行い、事業費は 68,000,000 円です。このうち 3/4 は補助金で、市の費用は 1/4 の事業です。それまで埋蔵文化財をはじめとした文化財は、市の保有施設の空いたところを使ってばらばらに保管していましたが、これを 1 ヶ所でかなり収納できるようになり、適切な保存環境ができつつあります。

「埋蔵文化財センター」をベースに他の施設、「山陰歴史館」や「福市考古資料館」、「上淀白鳳の丘展示館」等で今までの成果物の展示活用を行っているところです。

また、「埋蔵文化財センター」は建物に閉じこもって活用ができないので、外に向けて情報発信をしているところです。少しずつ皆さんにわかっていただくようになり、今年度は、夏休み期間中のなかよし学級に出向いて勾玉作り等を実施しています。なかなか周知が上手でなく少しずつですが、今年は5校から6校くらい出向いていく予定です。

引き続き17ページを説明します。「文化施設整備事業」の中で、「伯耆古代の丘整備事業」をあげています。これは合併前からの事業ですが、淀江町の福岡地区に集中している国の史跡をいかに整備して活用するのかを大目標として掲げている事業です。合併前の平成16年度から着手しており、第1次の整備が今年度でほぼ終わる予定です。

そこにどういう遺跡があったのかを理解していただくような説明版、復元施設等々の設置及び便益施設等の設置を行ってきました。また、上淀廃寺跡と周辺施設を紹介する施設として、旧淀江町の「歴史民俗資料館」を改築し、ガイダンス施設を建設しています。その中で、上淀廃寺から出た仏像、壁画を復元し、さらに仏像が安置されていた金堂を建物の中に復元し、白鳳時代を体感できるようになっています。オープンして2年目になり来館者はかなり多いですが、今後、周辺施設との連携をいかに深めて活用していくかというのも課題かと思っています。

上淀廃寺の整備関係はほぼ終わりましたが、今後、後期計画の中では「上淀廃寺跡」とリンクするような山陰有数の古墳群である「向山古墳群の整備」が俎上に上がってくると考えています。

18ページをお願いします。計画の中で「歴史的資料の整備とデジタル化事業」があがっており、事業名としてもそのまま持ってきています。「山陰歴史館」、「福市考古資料館」、「埋蔵文化財センター」などが持っている写真等の資料をデジタル化し、記録保存する事業です。19年度から取りかかっており、当初は22年度くらいで終わる予定でしたが資料が非常に多く、今年度までかかってやり、これで米子市が持っている10万点ほどの資料はほぼすべて、何らかの形でデジタル化が進んでいるところです。今後はそのデータをどういうふうに活用していくかが課題と考えます。以上です。

**岡課長** 以上がおおむね順調にできた事業です。

**福島委員長** 今事務局から前期の成果の報告がありました。あとの方は個別に報告がありますので、それらを含め、一括して皆さんからご意見をいただけたらと思います。

**神庭委員** 12ページの文化創造計画人づくり事業ですが、平成17年から始まって、米子市の若い人たちが都会へ出てやはり米子に帰って来たいと思うようなものにもっていきたい。若い人達を育てていくようなことが当初話された。平成18年の資料を見てみるとやはり人材育成で市民、特に子供たちに対する歴史その他の機会の提供やシステム作りといったことが話しあわれた。今は「よなごの宝88選探訪会」「よなごの宝を語る会」で月1回行われているが、若い人達との関連と、どういう方たちが集まって会を開いているのかという疑問があった。それから、人づくりを担うであろう図書館の職員の方がとても手一杯で、大変忙しい。もうちょっと余裕のある仕事というか、いろいろなことも考えたらいいのではないか。

**福島委員長** 関連することがあればどうぞ。それと今日の委員の共通認識として、実は前期計画の総括はわれわれにも責任のあるところですから、行政当局ができていない云々というより、この総括が正しく総括してあるかどうかという視点でできるだけご意見をいただきたい。この総括の書き方はちょっと実態と違うんじゃないかということがあれば、どんどん言ってもらって結構です。

あと、12 ページの人づくり事業に関連することだが、例えば毎回 30 人程度ある参加者の内訳が知りたい。年配の方が沢山集まるのが悪いわけではないが、同じような人が 30 人来た、20 人来たということで、これから米子の街を担っていく若い人の人づくりに焦点が合っているのか、どういう方が参加しているのか、そのあたりはどうか。

**岡課長** 次の世代を育てていこうというところについては、若い方、子供たちがどう参加していくかということがポイントになります。その中で「探訪会」、「宝を語る会」の主な参加者は、割と年齢の高い方となっています。この事業では、よなごの宝を発掘し、それを米子全体と捉えるのではなく、地域地域で宝を発見してもらおうということが目的であり、地域活動が盛んになればいろんな世代がかかわっていくことができ、子供たちもかかわりやすくなるので、そうした地域で柱になる人を育てていこうという狙いがあります。子供たちに対して歴史文化に興味を持ってもらうという意味で埋蔵文化財センター等の子供たち向けの講座や実際の活動の中で子供向けの歴史講座、体験講座も行っています。これをどう結び付けていくかが課題だと思います。

**福島委員長** 今の答えは総合的なこと。実態はどうか。

**岡課長** 実態は、高齢者の方が多いと思います。

**福島委員長** 30 名のうちの年齢層はどうかということ。同じ人がいつも参加しているのではありませんか。

**下高係長** 内容は、30 名で年齢層は 50 代、60 代が多いと思います。ただし、今まで歴史の事業は、だいたい同じような方が来られていたが、今回の場合は新しい方、同じ 50 代の方でも、把握していなかった方、今まで参加されていなかった方が結構あり、地域地域で裾野が広がったと思います。歴史関係は、事業や講座に同じような方が来られるが、そうではない方が結構多いので、成果が上がっていると思っています。

**田中委員** 「よなごの宝 88 の探訪会」等にかかわっているが、地域で公民館を中心とした活動、宝の冊子を出し探訪会を開くことで、そういう事を深めていこうという動きが確かにあり、すごいことであるし、是非続けていくことが必要だと思います。かかわっている人達が 50 代、60 代が大半で若い人は確かに少ない。若い人たちが平日に会に出てくることはむしろ少ない。地域で育てていって活動をやりながら、若い人達を呼び込んでいく。そういう活動も重

要と感じています。

**福島委員長** だいたい実態がわかって来ました。

**丸山委員** 一度だけ探訪会に参加したことがあります。有意義な会だったと思います。検討委員会の委員も参加してその実態を知ってほしいと思います。来年度あたりからは、子供たちに向けて探訪会のようなものをアピールし、一度でも二度でも若い人たちが足を運んでくれればいいと思います。埋蔵文化財センターの事業と探訪会はそれぞれ別の意義があると考えます。

**前田委員** 人づくりに結びつかないということが、今一番のネックですけれども、意外に成果は上がっていて、人づくり事業として成果にあげていくにあたり、地域の中で自分たちが取り組んでいくシステムが自然発生的にできていけばいいと思います。

**福島委員長** せっかく立ち上がったので、どう取り組んでいくのか、お互いに考えていくのが大事だと思います。

**田中委員** よなごの宝 88 探訪会・語る会が人づくりを目指すすべてではなく、その中のひとつとして活動していて、他の事業もこれに絡めていくべきと思います。

**神庭委員** 歴史とか文化とかそういうところで人づくりに子供たちに歴史に興味を持ってもらうことはいいと思うが、それが文化創造計画の人づくり事業となることとは異なると思う。いずれは米子に帰りたと思うようなまちづくりということで話し合われたのが、何か歴史にというふうにかかれていたのは違うような感じがします。

**田中委員** よなごの宝がいわゆる歴史的なものだけではないです。よなごの宝 88 選の中には、現在の彫刻もあがっているし、町の中のいろんなことがあがっています。並木のこともあり、いろいろな活動があがっています。単に米子の歴史を掘り起こすのではなく、検討しながらこれをどう使っていくのかと思っています。

**福島委員長** 今後の方向性の内容に、将来を担う人づくり事業を入れたらいいのではないかな。その方向性とは何か、視点を変えたらもっといいのでは。例えば、上淀白鳳の丘展示館もマンガをやっている。探訪会の資料を配られる時に子供たちも行くようなマンガ的なものも載せてみたらどうでしょう。

では、この部分は一応終わり、何か気がついたことがあればお願いします。

**神庭委員** 8 ページの(3)「今後の課題と後期計画について」の2行目「後期計画においては、「箱もの」の整備に終わるのではなく」という文書ですが、会を重ねていって「箱もの」の整備をしようという意識はなかったと思います。そうではなく、どうしても利用者として美

術館、図書館が行き詰っていったというか、もっとよりよい利用はできないのだろうかというところで、いままで進んできたと思います。「箱もの」の整備という言葉がちょっと気になります。

**福島委員長** 他の意見に関連するご意見がありますか。

**岡課長** 「今後の課題」に行きましたが、概ね順調に行ったものを説明しましたので、次②番目として、着手が遅れたが実施中のもの、③未実施のものを説明した後にまとめて今後のこととお話したほうが良いと思います。

**福島委員長** 事務局は、7ページの②の事業着手が遅れたものと、8ページあたりの説明をしたいとのことなので、それまでの説明のあったことについて意見があれば出していただきたい。

**遠藤委員** 歴史文化というようなソフト事業がかなり進んでいるということだが、市民感覚でいうと、文化という言葉が歴史とかに偏っているのではないかと思います。文化は非常に多様性があるものと思うが、そういった面での文化というもののソフト事業がどのように行われてきたのか示してほしい。また、今後このようにしたいと説明があれば、後期計画の中で議論していくことになると思います。

**岡課長** もともと計画の中にあがっていたものをベースに話をさせていただきましたが、米子市が主導していくものの中で、歴史文化施設がひとつ目玉にありました。図書館、美術館、歴史館の3つがハード整備の柱としてあります。そのほかの文化に関してはこの文化創造計画の中では重点的に語られていませんが、米子市の文化行政としては、文化振興という意味で公会堂、文化ホール、淀江文化センターといったホール関係を中心に指定管理という形で事業展開をしています。その中でできるだけ市民ニーズに合う形で提供できるような運営を考えており、実際そういう取組みをしています。

**遠藤委員** 今ハード整備の話が出たが、当初から、なぜここに文化ホールとか公会堂が入らないのかという意見は出ていました。今の話でいくと、当初からハード整備をしなくてはいけないものなのでここに載せたという説明に聞こえた。どちらかという行政の都合という意味で前期部分は評価したいと思う。ただそういった問題点も踏まえた上で議論した方がよい。

**福島委員長** その辺は、前期の評価、経過を踏まえながら後期は決定するということになると思う。

**岡課長** 補足します。当初「伯耆の国よなご文化創造計画」は合併を契機にして新市の一体化が大きな目的のひとつとしてあり、その中で両方に共通する市域の資源が、淀江の向山古墳群であったり、米子城跡とか、米子の歴史を語る歴史館であったりとか、どうしても歴史的な要素というのが一つのキーワードになっていました。そればかりが文化ではないので、図書館・美術館といったこれから整備をしていかなければいけないものが要素として入ってき



た。少し歴史的な要素が濃くなったというのはそのあたりかなと思います。

**前田委員** 戻るようで申し訳ないが、11 ページに関連しているので 3 ページの文化活動の支援事業の主な事業の中に是非書き加えたいことがある。「88 フォトモール」は、展示パフォーマンス等若い人たちがまったく新しい手法で取り組まれ、その手法そのものが米子から外へ飛び出して、いろいろな町でこれと同じような形態で事業実施をされているというふうに聞いています。特にモールの中での人を集める事業として開催されたとか。そういうものも一つの成果としてここに上げていただきたい。どこでどういうことされたかということは私たちにはわからないが、これにたずさわった方たちから聞いており、ぜひ載せてもらいたいと思います。

**長谷川係長** 「88 フォトモール」の展示を商店街で行った時に、ちょうど広島県呉市の方が見にこられ、「88 が米子」、「呉は 90」ということで、「90 フォトモール」というものが呉の商店街で行われました。呉市に実際見に行きましたし、展示ボードも 100 枚くらい呉市に貸し出して、事業の共通点があれば一緒に相談しながらやっ行ってこうと話をしました。

**田中委員** 17 ページの伯耆古代の丘整備事業で、この中には、「伯耆古代の丘公園」というのは入らないのですか。いろいろ書いてあるのを見ると、「上淀廃寺の新しいガイダンス施設」も歴史のイメージをつかんでもらうためにいろんな仏像を復元したりしてされています。「古代の丘公園」は、確かに実物はない、古墳もありません。建物があるけれども櫓、それもイミテーションですが、イメージを膨らませるためには、必要じゃないか、活用すべきじゃないかと思います。ここで勾玉作りや土器作りの事業をやっていましたが、今ではほとんど行われていなくて、施設が非常にもったいない感じがします。すぐそばに妻木晩田遺跡があり、今まで古代の丘公園でやっていたソフト事業と同じことをやっている。妻木晩田遺跡と周辺との連携があるのだろうか。今まであったものをつぶしているわけで納得がいけないが、そのへんはどうなのか。

**下高係長** 「古代の丘公園」は観光課の所管施設になっています。あの公園自体、遺跡がある方は文化財の管轄です。全体が指定管理者制度という制度の中で、よどえまちづくり推進室の管轄下、温浴施設をもつ榊白鳳が全てを管理するようになっています。設置した所管課は、ばらばらであるが一つのところが管理しているという姿にはなっています。おっしゃるように古代の丘公園については、設置後かなり年月が経っており、老朽化してきているため施設が十分に活用できていないという実態があり、今後の検討課題になってくると思います。妻木晩田遺跡との棲み分け、これも整備が終わってグランドオープンしましたが、弥生時代から古墳、お寺の時代までをずっとたどれるいい遺跡があるので、県と市という垣根を取り払って上手に一体的な活用ができないかと話し合っているところです。問題意識は持っており、今後、後期計画の中で検討したいと思っています。

**田中委員** 是非お願いしたい。もうひとつ、妻木晩田は、弥生祭りとか秋麗祭りとかやるのでぜひ地元の企画で協力をお願いしますと、協力ばかり求めてこられます。じゃあ、地元で育てようとしているものを県は保護しているのかというと、実はひとつもしてくれていない。このあたりが問題だと思う。妻木晩田との連携とか書いてあるが、現実問題、連携は感じていない。そこらをきちんとしていかないとお互いのことで成り立たないと思うので、それぞれ担当課があるでしょうが、なんとか後期計画の中では一連のものとしてやっていただけたらありがたい。

**福島委員長** 非常にいい意見だと思います。市民にとっては同じですから、市とか県とか線が引いてあるわけではないので、問題意識は持っていることだがそれが本当にできてないのが問題であり、それぞれ歩み寄っていけるかなと思います。

17 ページのかなりの金額が上がっているが、これは国県の補助金があるのか。

**下高係長** 大雑把に言うと、国が半分、県が 1/6、残りが市です。

**狩野委員** 例えば妻木晩田では、定期的に学芸員による講演会があって、妻木晩田のことだけは、自分の所掌ですからなんだかんだといえるが、向山古墳群とかは市の管轄ですので、ちょっかいを出したがつておられるような雰囲気があります。

連携事業は、極端な言い方すれば、どちらが頭を下げるとか言うのではなく、垣根を越えて現地での講演会、交流会というか企画をすればある程度できると思います。

例えば後期計画でそういう計画するなら、来年度でも再来年度でもいいから、どちらかが割り当てで分担するやり方もあると思います。例えばそういうふうな議論、一つの事例で検討をされたらいかがでしょうか。

**福島委員長** 時間も経過したので、残りの部分を説明してもらいます。

**岡課長** 資料 7 ページに戻り②番目に事業着手は遅れたが実施中のものとして、「図書館美術館整備事業」をあげています。今整備工事に入っており、旧二中の校舎撤去工事が終了し昨日、これからの建築主体工事の工程表が建設業者の方から示され、7月から準備に入っており、やがて図書館増築工事、美術館の増改築工事といったものに入って、最終的には、来年 25 年の 6 月中の完成を目指し、進めていくという状況です。

図書館美術館整備計画は、当初平成 19 年度から 22 年度までの予定が 3 年間ずれ込みました。現在進行中であり、最終完成が前期計画からはちょっとはみ出しますが、これは完成に向かって進んでいるとご理解いただきたい。

8 ページに未実施のものが 2 件あります。未実施事業の一つは、山陰歴史館の整備事業です。歴史館については、建物自体文化財であることと、入っている歴史館の機能という 2 つの側面から考えていかないといけないと思っています。合併してからこの間、例えば教育委員会では学校施設の耐震化が優先だということもあり、あるいは、歴史館としての位置付け

をどうするべきかということもあって、周辺施設、中心市街地の活性化といった絡みのなかで、現実的に方向性が定まらずに未実施となっているという状況があります。

もう一点の未実施は、情報ネットワークの構築事業です。これも先ほど資料のデータ化ということは言いました。一応データ化がまず第一段階まで終わったのですが、今度どう活用していくかということです。例えば、情報提供という意味においては、文化情報のポータルサイト的なものは今ホームページ上に立ち上げており、そこから、公会堂や図書館、美術館、歴史館が何のイベントやっていると、利用料はいくらかといったことが見られるようにはなっているが、そこから先は各施設のホームページにつながっていくという仕組みです。情報提供の部分では、当初と比べれば見やすくなったかなと思っていますが、データ化した資料をどういう見せ方をするかが今後の課題として残っています。ネットワーク事業、IT関係の事業ということになると思いますが、いろいろな新しい技術、新しいツールなどがまさに日進月歩であり、便利なものができたり、これまでいいと思われていたものが役に立たなくなったりという状況があり、非常に流れが速い中で、どういう使い方が一番いいのか、ソフト面も総合的に考えて決めかねているというのが正直なところだと思います。そういったことで歴史館と情報ネットワークの整備については、現在未実施であるというご理解をいただきたい。

**福島委員長** 7、8ページを含めた意見をいただきたいが、8ページで一番最後に話があったので、(3)の今後の課題と後期計画について、指摘のあった「単に箱もの整備に終わるのではなく」というこの文言ですが、今この文化創造計画の中では、市民の多くの利活用があって、要望が高い施設の整備を行ったというふうにします。したがってそこはカットしていただきたい。今言ったように、多くの市民の利活用の要望が高い施設の整備を行った。今後は、さらにその利活用を上げていくという方向で出してもらいたい。今ほかのページで関連であればどうぞ。

**狩野委員** 表現については皆さんのご意見に従って。ただ1点、ここの「箱もの」というのは単に建物と解釈なさるのではなしに、先ほどからあるように、後期計画の中で様々な資料がありましたが、それをデジタルアーカイブ化しました。これを指して箱モノというふうに言うのであれば、妥当な言い方かなと思います。この場合次の検討にもあるように、特に⑥番目が一つの大きな山になる気がします。具体的にはどのようになるのかわからないが、前期では検討部会を設置してシステム構築というふうに書いてあります。残る7年間で半分に区切って、ある程度やってもういっぺん途中で見直しをするとかという柔軟な動き方をすれば、これがうまく機能する気がします。

そういった意味合いでこれからの検討事項があるので、是非基本のスタート台のグランドデザインというか、こういうふうにしたい、ああいうふうにしたい、対象物やいったいどの人が対象になるのか、そういったことを明確にすれば、案外ぶれないかなと思います。目の前のターゲットをあまり考えないのであれば、情報発信というキーワードについてはかなり長く使えるものが構築できるのではないかなと思っています。それに一番有効なところは十分に検討すべきだろうと意見を言っておきます。

**福島委員長** 情報ネットワークはデジタル化の流れが速いから、当初基本計画を策定する段階で、私も言いました。ほかの自治体でこういったことをやり、莫大なものをかけたが、結局利活用がなく遊んでいると聞いたことがあります。そういったことを私は何回か言った覚えがあります。流れに乗りながら慎重に検討していきたいと思います。

**狩野委員** ちょっとご意見に補足をさせていただきたい。今、作って活用がないとおっしゃったが、多分作って、構築して、これで全部使えますよという考えだったらおっしゃるとおりです。今も申し上げたように、途中で見直しをして、これが今の現状に合う合わないのチェックをして再度見直しをかけるわけです。結構長いので是非見直しを計画の中で考えられるべきだと思います。

**福島委員長** その他の意見はどうですか。図書館美術館のほうからも何かありませんか。図書館長については専任館長をとという意見が出ていましたが。

**伊藤委員** 現在専任です。兼任だったのは1年間だけで、生涯学習課長が図書館長と兼任でした。平成2年の開館以来、その1年を除いては専任の館長がついています。

**福島委員長** 今は専任ですね。

**伊藤委員** はいそうです。

**福島委員長** 今意見が出たものを、前期の総括の中に取り入れていただいて、あと、次の議題のその他の中で今後のスケジュールとか方向性ですとかお願いします。

**岡課長** 今後のスケジュールですが、今回この総括をさせてもらい、今日の意見等を踏まえて、中身はもう一回整理したいと思います。総括は総括として、そこで残った課題、この15年計画の前期が終わり、残りの積み残しの部分と、それから状況等が変わって新たに出てきた課題等、を踏まえて、10月か11月あたりに、後期計画の素案を提案できたらと思います。

それをたたき台にして、ご意見等をいただき、年明け1月、2月あたりで、この検討委員会の中で論議していただき、最終的に24年度末を目途に策定を進めて行きたいと考えます。今回が今年度1回目の検討委員会になり、2回目で素案提出、3回4回でそれを叩くというような、概ね4回程度予定しております。残り3回で、それまでに資料ができれば、また随時ご確認いただきながら、会を進めたいと思います。

**福島委員長** 最初基本計画を検討して報告を19年の3月に前期計画の24年度まで決めて市長に報告したが、後期計画もそういったものですか。

**岡課長** それは、答申というような形ですか。

**福島委員長** 19年の3月基本計画案ということで。

**岡課長** 要綱上、ご意見をいただいて、その結果を取りまとめていただいたものを、教育委員会に報告いただくということになっているので、それでいくと教育委員会、教育長に報告いただくというような形になろうかと思います。

**平木事務局長** 一応この会の設置要綱上は教育委員会に報告ということになっており、それが正式ですが、伯耆の国よなご文化創造計画は重要な計画ですので、市長のほう希望する場合もあるかと思えますし、市長に渡していただくこともあるかもしれませんのでお含みいただきたい。原則は、教育委員会です。

**福島委員長** そういったことで、もうあとありませんか。

**遠藤委員** 後期の計画についてお願いします。この計画の中身は箱もの整備を含む施設を中心とした創造計画だと思っていました。この文化創造計画の所管としているものだけで、公会堂などが入っていない。これはまさに行政の縦割りから進んできたものかなど。本来であれば、例えば公会堂であったり、もっと言えばビッグシップであったり、どらどらパークというのかどうかはわかりませんが、米子市内にある文化ホールと文化施設、それらも含めた連携、ランドデザインのようなものを目指されたい。

ソフト事業に関しても、予算がついて米子市でやられたことばかりが入っていると思うが、そうではなくて、もっと民間がやっている多様な文化もある程度米子市が支援していく。お金をつけてくれるのではなくて、全体でそれを合意形成する。市民感覚でいくと、今たとえば米子に何が起きているか、県全体ではやっぱりマンガがすごいよねと。そういった文化すごいよねということが、県全体の市民感覚ではそういうふうに使われている。そういったことがここに全く出てきてない。そういった意味でももう少し幅広の、市がお金を出して人手を出してやることだけじゃなくて、支援したりするようなことについても取り組んで、ランドデザインを描いていただきたい。

文化財に関しても、市民感覚で言うと、妻木晩田遺跡を中心として、上淀廃寺あたりは一体として受け止められている。ここを一体としてどういうふうに使っていくのかという米子市なりのランドデザインを作った中で、県、市町村が思う整備計画を調整しながら作っていくというのが文化創造ではないかと思っているので、米子市所管の施設を中心にするのはわかるが、要は市全体を視点に置いたランドデザインを作ってもらいたいと考えている。

**福島委員長** そのほかありますか。丸山委員どうですか。何かありませんか。小原委員の方で何かありましたら。

**小原委員** 今年委員になり、過去の最初のころをたどって今一生懸命勉強をしています。公民館では、主に青少年の文化的な機会を沢山の機会を持っているので、小学生、中学生が夏休みになって学校が休みになると部活や学校行事等でなかなか集まってもらえないので、その

辺をどのように調整したらいいかと苦慮しています。

**平木事務局長** 公会堂の整備がこの計画に盛り込まれていないという遠藤委員のご意見ありました。私の理解では、この文化創造計画は、先ほど文化課長も申しましたように、合併を契機にどういった新市にしていくのか、特に文化という切り口で、淀江の方が歴史文化の資源をたくさん持っていたもので、それを切り口にして作られたものと考えています。策定当時の計画の中で公会堂は、今回のような大規模な改修ではなく、耐震改修のみの小規模な整備だけを想定していたと思います。

実を言うと後期計画ではこの取扱いどうしようかと内部的には検討しておりまして、単純に公会堂の機能が改修前と変わらないものであるならば、それは特に入れ込むものでなかりうと思っています。使い勝手を多少なりとも改善しようと予定しており、その内容によりましては、後期計画の中に一言述べさせていただくことはあるかもしれませんが、あらかじめお断りしておきます。

**遠藤委員** 私が思ったのは、ソフト事業として実際に活用していくためのコンテンツとして、文化の人づくりとしてとらえた上で、それを含めた利活用として取り組んだらいかかという話です。もちろんビッグシップなどに関心を持っており、それは関係ないということは分かっていますが、これを含めた活用というのを考えられるのも必要かと思っています。

**福島委員長** それでは最後に次回の委員会の予定を伺いたい。

**岡課長** 10月ないし11月ぐらいだとは考えているが、役所の内部で素案を作っていないといけませんので、時期が近くなりましたら、またお知らせしたいと思います。おそらく10月の下旬ないし11月かなというふうには思っています。

**福島委員長** では、次回は10月の下旬か11月に会を開くということにしたいと思います。それでは長時間ご審議いただき、何分にも前期の総括ですので、まだまだ至らないところが沢山あると思いますが、一応今日はこれで終わりたいと思います。